

食品全般に関わる研究開発について情報交換や共同研究を行っている天然資源の開発利用に関する日米会議（UJNR）食品・農業部会について紹介します。

天然資源の開発利用に関する日米会議（UJNR）食品・農業部会は、UJNRの18ある専門部会の1つとして、1971年に「蛋白資源専門部会」として発足しました。蛋白資源専門部会においては、肉や肉製品の流通・加工技術、牛飼料の供給技術、魚肉や植物性蛋白の加工利用技術等について情報交換を行ってきました。蛋白資源部会への訪問国側からの参加者は、当初は5名程度でしたが、1990年以降、10名を超え、2000年以降は、30名を超える多くの研究者が参加しています。この頃から対象領域が拡大し、蛋白資源利用技術、微生物・酵素利用技術、栄養・機能性評価、食品分析・品質評価技術、安全性確保技術、食品加工技術、非食用途開発等が取り上げられて討議され始めました。こうした背景から、2003年度より当部会の名称を食品・農業部会と変更して、ほぼ毎年日米で合同部会を開催し、現在では「食品の栄養・機能性」、「食品安全」、「食品加工」、「穀類と品質」、「バイオカタリシス・バイオテクノロジー」、「グリーン・ケミストリー」の6つのセッションについて、基礎的・応用的研究分野の情報交換、研究者間の交流、共同研究を推進しています。